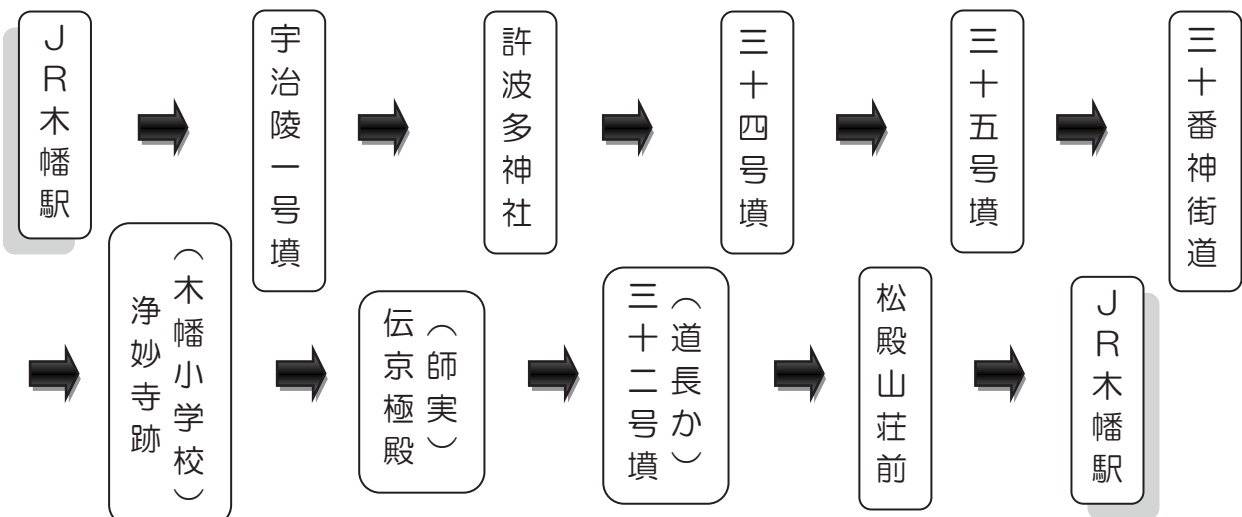


No. 16 道長はどこに眠るのか～ 宇治陵に藤原氏の謎をさぐる

おすすめポイント

極楽浄土を模した宇治の平等院が藤原氏全盛時代の象徴とするならば、木幡の地はまさに葬送の地である。「この世をば我が世とぞ思う望月の欠けたることもなしと思えば」とまで詠った道長は、この地に広く分布する宇治陵のどこに眠るのであろうか。それは長い間の謎であった。しかし、木幡小学校建設に伴う発掘調査によって、浄妙寺跡が発掘され頼通が道長墓に参った記録から道長の眠る地を推定できるようになってきた。三十七箇所ある宇治陵の総拝所と定められた一号墳から、基経、冬嗣、時平の墓をはじめ師実や基房の別業跡も含めて、藤原氏葬送の舞台を歩いてみましょう。



ここに注目



●浄妙寺復元図

浄妙寺は藤原道長が1005（寛弘2）年に藤原氏の菩提を弔う為に建立した寺。その後衰退し、室町時代の一揆により焼失したが、文献に基づく発掘調査によって具体的な姿を推測する重要な成果を得ている。



●宇治陵総拝所（宇治陵1号墳）

JR・京阪木幡駅付近から北東に広がる丘陵は、藤原氏の墓地が営まれていた所。1877（明治10）年、宮内省の調査により、藤原氏出身の皇室関係者 17 陵3墓を宇治陵とし、塚は1号から37号まであり、1号陵を総拝所とする。そばに藤原氏塋域の碑が建立されている。

